お茶の水女子大学附属学校園での実践を基にした　実践事例報告

① 校種、学年： 高校１学年

② 実施日時： 2020 年１月（各クラス ３時間）

③ 実施学校園： 長野県長野工業高等学校

④ 概要・コメント：
内容： １年生家庭基礎の授業において香り袋（匂い袋）を製作
分野： 衣生活と資源・環境 （持続可能な社会を目指して～私たちに何ができるのか～）
エシカル消費
材料： 絹 100％の和服生地（和服のはぎれ等）
実習： 和服のアップサイクル（授業時間：3 時間）
日本では和服を着用する機会が少なくなり、約 10 億枚が死蔵被服といわれている。その中で着用出来ない和服や和服生地のはぎれを利用し匂い袋を製作した。
目的： SDGs時代におけるつくる責任とつかう責任について学び、実際にアップサイクル実習を行う。そこで、持続可能な社会のあり方を考える。また、基礎縫いの縫い方を学び、衣生活の自立に繋げる。
参考資料： お茶の水女子大学付属高等学校葭内先生のSDGs時代における家庭科教育実践のホームページ
京都大学ホームページ （持続可能な社会実現のために Kistory）
国連広報センター作成 「持続可能な社会のためにアクション・ガイド」
ここからエシカル MAP （長野県版エシカル消費とは?）
考察： 日本人は大部分の人が通常「日本の民族衣装」である和服に触れる機会が少ない。しかし、今回のアップサイクル実習を通じ生徒は和服生地を扱うことで絹の特徴や日本の伝統的な染色、刺繍、伝統柄等にも興味関心を高めた。持続可能な社会のあり方を考えるきっかけができたと考えられる。

⑤生徒が製作した香り袋（匂い袋）の写真